



国臨協関信

HP アドレス : <https://kanshinshibu.org>

関信支部ニュース第 230 号 令和 4 年 11 月

- 事務局／〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院
中央検査部門内
- 発行者／吉田茂久
- 編集委員／齋藤広樹 竹内智也 鷹取有紀
渡辺順也 飯田伊織
- 印刷所／一喜堂印刷株式会社 ☎0268-35-2624

第50回国臨協関信支部記念学会報告

国臨協関信支部事務局長 梅戸 克之

新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、令和 4 年 9 月 3 日（土）に、昨年に引き続き Web 形式におきまして第 50 回国臨協関信支部記念学会を開催いたしました。多機能ブース型のオンラインイベントプラットフォーム「EventIn」を用いた新たな試みでしたが、一般演題発表 28 演題、企業ランチョンセミナー 3 講演、第 50 回記念学会企画の特別講演、関信支部学術委員会による分科会を、関信支部会員 431 名（会員以外を含む参加人数 450 名）の参加の下、無事開催し終了することができました。学会に参加、開催に際しましてご支援ご協力を賜りました会員の皆様方には感謝申し上げます。

今回で 50 回という大きな節目を迎えた本学会のテーマ『未来への跳躍 ～過去から学び未来へつなぐ～』は、過去を知らずして未来を作ることができない、過去を知るということで臨床検査の未来を拓き次代へつなぐ学会となりました。

一般演題は、28 演題（内：新人 19 演題）の応募をいただき、日頃の研究成果の発表が行われ、セッション毎に座長よりベスト口演賞が選出され 6 名の演者の方が受賞されました。

新たな企画の企業ランチョンセミナーは 3 講演（「血液媒介ウイルス検査と治療の進歩および暴露対策」、「標準採血法ガイドライン改訂のポイント」、「心不全パンデミックに備えた NT-proBNP 測定」）を開催し、いずれの講演も興味関心のあるテーマでありました。

第 50 回記念学会企画の特別講演は、国立感染症研究所ハンセン病研究センター客員研究員 北原誠先生による「我が国におけるハンセン病対策の歴史と現状」を講演いただきました。講演内容はとても興味深いもので、らい予防法の下、差別や人権侵害、長きにわたり収容された人々の今まで殆ど知らなかったハンセン病の歴史について知ることができ、ハンセン病の“正しい知識”をこれからも後世に受け継いでいかなければならないと思われました。また、聴講された皆様にとってもハンセン病を改めて考え、認識を深める機会となったのではないのでしょうか。

関信支部学術委員会による分科会は、生理検査部門より「皆どうやって出している？描出が難しい臓器！ライブデモンストレーション・腹部超音波検査」を芦川生理検査部門長、白倉生理検査部門員に講演いただき、非常に丁寧で分かりやすい解説で、これから腹部超音波検査をはじめの方、すでに第一線で活躍されている方へも多いに活かせる講演でありました。

閉会式において、国臨協関信支部表彰が発表され、水戸医療センター 臨床検査技師長 久間修平氏、宇都宮病院 臨床検査技師長 林元久氏、西新潟中央病院 臨床検査技師長 渡辺靖氏、小諸高原病院 臨床検査技師長 沼田ますみ氏、千葉東病院 副臨床検査技師長 小池容子氏の 5 名を表彰させていただきました。

後日発表となった学会賞は、学会賞選考委員による厳正な審査の結果、新人賞は「弾発指患者における腱鞘ガングリオンの保有率と関節超音波検査の有用性について」を発表された渋谷医療センター 藤川穂香技師、学術奨励賞は「血液培養陽性液を用いた直接 mCIM 法の検討」を発表された東京医療センター 角田雅治技師が受賞され、特別賞は該当者なしという結果でありました。また、地区会コーナーでは各地区会より素晴らしいポスターを作成していただきましたが、最優秀賞は千葉地区会、優秀賞は東京・山梨地区会および群馬地区会が受賞となりました。

今回で節目の 50 回を迎えた国臨協関信支部学会は、ひとえに会員皆様方のご支援ご協力と諸先輩方の弛まぬ努力によって今日まで受け継がれてきました。50 年という、これまで築き上げてこられた歴史を礎として、今後も未来へ向けた国臨協関信支部学会、臨床検査の更なる発展を目指していきたいと考えます。また、「EventIn」を用いた集合型学会さながらに様々な会場を視聴できるコンテンツではありましたが、やはり会員の皆様と直接お会いし、対面でのディスカッション、情報交換ができる学会を来年こそは期待します。

最後に、学会へご参加いただきました皆様、開催に際してご協力賜りました会員各位、そして学会企画、準備、運営に携わっていただきました学術委員会委員、OB 会の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

学会基地局



第50回国臨協関信支部記念学会 「学会賞」選考委員会報告

国臨協関信支部学術委員会副委員長
NHO 横浜医療センター 小林 真二



国臨協関信支部表彰規程に基づき「第50回国臨協関信支部記念学会」の学術奨励賞、学会特別賞ならびに新人賞の選考をしましたのでご報告させていただきます。

各賞の選考基準として学術奨励賞は学術的に特に優秀と認めたもの、学会特別賞は施設又は地区会の取り組み等で特に優秀と認めたもの、新人賞は新人枠の中から選考いたします。

1次選考は登録演題28題を学術委員全員で査読し候補者の選出を行い、2次選考は8月25日にWeb会議にて芦川委員長（NHO 信州上田医療センター）、平木輪血部門長（NHO 埼玉病院）、香川委員（国立成育医療研究センター）、椎名副支部長（NHO 水戸医療センター）と支部学術担当理事4名の計8名により候補者の選出を行いました。最終選考は9月3日学会当日のライブ配信を視聴し2次選考対象演題を中心に審査・採点を10段階で行いました。そして9月6日の学会賞選考委員会によるWeb会議にて各賞を最終決定いたしました。

新人賞は「弾発指患者における腱鞘ガングリオンの保有率と関節超音波検査の有用性について」を発表された、渋川医療センターの藤川穂香技師を選出しました。本研究は過去に報告数が少なく貴重であり、治療方法の選択に直接関わる臨床的に有効性の高い検査と思われ、各施設においてとても参考となり得る内容でした。またスライド内容、口頭発表態度ともに高評価でありました。

学術奨励賞は「血液培養陽性液を用いた直接mCIM法の検討」を発表された、東京医療センターの角田雅治技師を選出しました。従来法と比較し直接mCIM法の有用性を的確に報告し、今後の臨床への応用が期待できる独創的な発表内容でした。今後さらなる検討に期待いたします。

学会特別賞は、残念ながら国臨協関信支部表彰規程の選考基準に該当する発表がなく「該当なし」といたしました。

受賞されました方々ならびに施設の皆様、おめでとうございました。

第50回国臨協関信支部記念学会

学術奨励賞を受賞して

NHO 東京医療センター
角田 雅治



令和4年9月3日に開催された第50回国臨協関信支部記念学会において、学術奨励賞をいただき、大変光栄に思っております。

本学会では「血液培養陽性液を用いた直接mCIM法の検討」という演題で発表させていただきました。本検討は、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）で毎週行っている英語論文の抄読会で、血液培養液から直接菌名同定や耐性機構について調べる論文を読み、自分にも何かできないか、と考えたことがきっかけでした。

敗血症において、菌名や薬剤感受性結果を迅速に報告することは、治療方針の決定、院内感染の拡大抑制に寄与すると考えられます。特に薬剤耐性菌か否かの判定を、迅速に行うことは適切な抗菌薬選択の上で重要となります。そこで、特殊な機器が無くても簡易的かつ迅速に薬剤耐性菌を検出する方法として本検討内容を考えました。今回の検討で臨床的有用性を示すことができたので、学術的裏付けの下、様々な菌株や異なる条件下でも検討を進めていきたいと考えています。

今回、学術奨励賞を受賞するにあたりましては、臨床検査科の先生方や技師の方々、薬剤部、感染症内科の先生方に支えていただいた結果だと思っております。今後もさらに精進し、適切な抗菌薬の選択を迅速に報告できるよう、検討を続けていきたいと考えております。

最後になりますが、学会を開催するにあたりましてご尽力下さいました国臨協関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

第50回国臨協関信支部記念学会

新人賞を受賞して

NHO 渋川医療センター
藤川 穂香



この度、第50回国臨協関信支部記念学会におきまして、新人賞を頂き、大変光栄に思っております。本学会で発表した「弾発指患者における腱鞘ガングリオンの保有率と関節超音波検査の有用性について」は、昨年当院で開設されたハンドケアセンターにおいて、臨床検査技師がどのように貢献できるかを、検討し、取り組んだ中で得られた知見を報告したものです。

ハンドケアセンターには、手指に関する症状を訴え受診する患者が多数います。手指疼痛を伴う疾患は様々ありますが、その中で頻度が高い疾患として、弾発指やガングリオンがあります。両者は単発なこともあります、併存することもあり触診等では鑑別困難です。そこで、軟部組織の形態的評価や微小な病変の描出に優れる超音波を用いて弾発指患者における腱鞘ガングリオンの保有率の検討を行いました。

今回の検討では、弾発指の好発指である中指、環指において腱鞘ガングリオンの保有率が有意に高いことが分かりました。半面、弾発指と腱鞘ガングリオンの関連性については、明らかになっていないことも多く、今回の検討だけでは、関連性を断言できるまでには至りませんでした。しかし、治療前に腱鞘ガングリオンの有無を確認することで、手術領域の決定に有用であった症例もあり、超音波検査の有用性が非常に高いことも示唆されました。今後更なる的確な診断と治療選択に貢献できるよう、症例を増やし、検討を推進することで、新たな知見を見出していきたいと考えております。

今回、このような賞を受賞できましたのも、抄録やスライド作成にご指導いただいた諸先輩方のお陰であり、心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、学会にご尽力頂きました国臨協関信支部役員の皆様をはじめ、関係者の方々に深く御礼申し上げます。

ベスト口演賞を受賞して



NHO
災害医療センター
水田 涼太郎

この度、第50回国臨協関信支部記念学会にてベスト口演賞をいただき大変光栄です。質疑応答では思ったような返答ができず、自分がこのような賞をいただけたとは想像すらしませんでした。受賞できたのは、諸先輩技師の熱心なご指導のおかげだと思っております。また、学会を開催するにあたり御尽力頂きました国臨協関信支部役員の皆様に心より感謝申し上げます。



NHO
信州上田医療センター
宮山 和樹

この度は第50回国臨協関信支部記念学会におきまして、ベスト口演賞を頂き大変光栄です。演題は、内部監査をきっかけとした部門内の業務改善について発表いたしました。今回の受賞を励みに、今後もより良い検査室の運営に向け尽力してまいります。最後に、本学会の開催にご尽力いただきました国臨協関信支部役員の皆様をはじめ、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。



NHO
埼玉病院
菊池 香苗

この度第50回関信支部記念学会におきまして、ベスト口演賞をいただき大変光栄に思います。今回初めての学会発表であり、至らぬ点も多い中、産婦人科の先生や先輩技師の方々にご指導をいただきながら無事に発表することができました。今回の発表を活かし、これからも広い視点を持ちながら精進してまいりたいと思います。



NHO
渋川医療センター
東田 真苗江

この度は思いもかけずベスト口演賞を頂戴し、感無量でございます。今回発表した血液製剤の廃棄率0%を達成した要因は、開院以来諸先輩方が積み重ねてきた取り組みがようやく実を結んだものであると考えております。まさに今回の学会サブテーマ“過去から学び未来へつなぐ”を具現化したような活動でした。今後はメインテーマの“未来への跳躍”を実現できるようにこの取り組みを推進していきたい所存です。最後になりましたが、学会を開催するに当たり御尽力下さいました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

Congratulations

地区会コーナー

★★★
最優秀賞
千葉地区会

国立国際医療
研究センター
国府台病院
伊東 玲奈

令和4年9月3日に開催された第50回国協関信支部記念学会にて、千葉地区会が最優秀賞を受賞することができました。各地区会で印象的な趣向を凝らしたレベルの高いスライドが多い中、最優秀賞を受賞することが出来たことは大変うれしく思っております。

節目を迎える今年のテーマは『我が地区会の〇〇記念』であったため、当地区会では過去～現在～未来へと各施設での時代への移り変わりを表現しました。各施設がそれぞれ作成したスライドを共有し、他施設のスライドとのバランスを考えながら、より良いものを作ろうと何度も修正を重ねたことが今回の受賞につながったと考えています。私が担当した表紙、新会員紹介のスライド完成まではすべてメールでのやりとりであったため、各施設から送られてきた情報、意見を1つのスライドにまとめることに苦労しました。また、タイトル決定にも頭を悩ませました。熟考されたタイトル候補は数点あり、どれも優劣付け難く検討を重ねましたが決定には至らず、最終的には投票で『我が地区会の 往古来今 記念』に決定しました。往古来今とは、「過去から未来まで、綿々として続く時間の流れ。」綿々と続く時間の流れのなかで何を感じ、受け入れ、これからどのように進むのか、学会のテーマとも重なっていてとても気に入っています。

前年に引き続き新型コロナウイルスの影響で集合型のイベントが開催できず会員の交流の場は減ってしまっていますが、この賞に負けないように今後の地区会活動をよりいっそう盛り上げていきたいと考えています。

最後に学会開催にあたりご尽力頂いた国協関信支部役員の皆様をはじめ関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



★★★
優秀賞
群馬地区会

群馬地区
地区会長
松井 孝男

この度、地区会コーナーにおいて優秀賞を群馬地区会が頂戴いただけましたことは大変光栄に存じます。また、投票いただきました投票代表者の方々にはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

「我が地区会の〇〇記念」というテーマを頂き、直ちに地区会では理事会を招集し、群馬地区会では「団結記念」と称し、ポスター作製の方向性を確認して次の日より取り掛かりました。「団結記念」とはコロナ禍における今、各施設において新たな取り組み事、何かを成し遂げた事、またスタッフ全員で団結して頑張った事などを『記念』として1枚にまとめることよりスタートさせました。

楽泉園ではハンセン療養所だから草津だから栗生楽泉園だからできる事を3名で一致団結して行った取り組みを紹介しました。沼田病院では4月より新たな技師長を迎え8名体制で声を掛け合いながらまた、検体が多い時には工程を分担しながら検査室リフォームを含めたアットホームな団結を紹介しました。渋川医療センターでは渋川医療センターの前進の西群馬病院と市立渋川総合病院の統合はいわゆる団結。東京都臨時医療施設への応援、多職種連携としての団結、さらには病院機能評価受審に向けて団結して取り組む意気込みを過去から未来へ向けてと題して紹介いたしました。最後に高崎総合医療センターでは創立150周年の記念、ドクターカー稼働10周年記念、採血室リニューアル記念、一酸化ガス分析稼働、コロナ関連検査機器増設を記念として団結して頑張っている様子、また、群馬県ワクチン接種事業へスタッフが団結して参画して得た「功労の証」をご披露いたしました。ポスターの鉄則として「テーマの尊重、解り易さ、インパクト」を重視しました。地区会テーマ「団結記念」の表現には各施設の応援団長を見出しに、各施設紹介を挟み、沼田病院職員駐車場から偶然にも撮影できた虹で「我が地区会の団結記念」をまとめ、「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」チームワーク精神で結びました。他に何パターンか考えておりましたが、最高の選択が出来たことに正直ほっとしています。IllustratorやPhotoshopを駆使して作製したスライドは4施設の総力を挙げて完成させたものです。次回も群馬地区会は一一致団結して頑張りたいと思います。最後にどの地区会も素晴らしい傑作ぞろいでした。また来年も健闘いたしましょう。お疲れ様でした。



★★★
優秀賞
東京・山梨地区会

NHO 甲府病院
三上 大

第50回国協関信支部学会地区会ポスターコーナーにて、東京・山梨地区会は優秀賞を受賞することができました。今回のテーマは〇〇記念と題し作成しました。デザイン構成に大変悩まされましたが、多くの方々からアドバイスをいただき、SF映画の主人公をモチーフにしたアイデアを取り入れ作成しました。どの地区会も様々な記念を色々な角度から独自に表現されていました。多数の素晴らしい作品の中で、優秀賞を受賞できたことは、心から嬉しく思います。

依然として新型コロナウイルス感染症が増減を繰り返しています。学会等はWebによる開催が主体となっており、他施設の方々と直接会って交流することが少なくなりました。今回、ポスター作成を通じて東京・山梨地区会施設の方と意見交換をすることで、様々な意見や考え方を学ぶことができ、大変良い経験となりました。

最後に学会開催にあたり、ご尽力いただきました国協関信支部役員の皆様をはじめ、関係された方々に深く御礼申し上げます。



学会企画

学術委員会による分科会に参加して

生理部門



NHO 西埼玉中央病院
寺瀬 ひなの

令和4年9月3日(土)にライブ配信にて国臨協関信支部学会が開催され、学術委員会による分科会を視聴させて頂きました。今回は、「描出が難しい臓器の腹部超音波検査」をテーマに、2名の先生方から、特に脾臓・虫垂・腎動脈にスポットライトを当てて、描出のコツやテクニックを、ライブデモンストレーションを交えてご講演頂きました。

私は腹部超音波業務を担当して約1年半になりますが、未だに脾臓の検査には苦手意識があり、限られた検査時間の中で全体像を描出できず諦めてしまうことがあります。また、虫垂をはじめとした消化管、腎動脈に関しては、まだ実際に検査を経験したことがありません。

信州上田医療センターの芦川晋先生からは脾臓・虫垂の基本走査から描出のコツ・検査の要点を中心にご講演頂きました。中でも、腹部エコーの敵「ガス」は圧迫だけでなくプローブを小刻みに振ることで除けられると知り、早速業務で実践してみようと思いました。

渋川医療センターの白倉聡先生からは腎動脈の基本走査や血流評価を中心に、様々な検査テクニックをご紹介頂きました。「オシャレテクニック機器設定編」で、被検者の条件に合わせて周波数や視野角を変えることで、より信頼性の高い検査が行えると解説して頂きました。改めてどの検査でもしっかりした基礎知識、そしてその基礎を実践・応用することが有意義な検査に繋がるのだと再認識しました。今回の分科会で得た新たな知識・技術を、一日も早く自分のものとし、どんどん実践していけるよう日々精進していきたいです。

最後になりますが、ご多忙の中ご講演を賜りました学術委員の先生方、並びに分科会を開催・運営して頂いた国臨協関信支部役員の皆様に、深く御礼申し上げます。



NHO 村山医療センター
中野 わかな

令和4年9月3日(土)に第50回国臨協関信支部記念学会が開催され、学術委員会による分科会を拝聴しました。「皆どうやって出している？描出が難しい臓器！ライブデモンストレーション・腹部超音波検査」という題目で、観察が難しいと言われている脾臓、虫垂、腎動脈についての講演でした。

解剖の基礎や描出が困難な理由と、上手に観察するために工夫すべき点を解説してくださり、ルーチン検査で腹部超音波検査を行っていない私にとっても注意点が明瞭で非常に理解しやすく、有意義な講演内容でした。また、デモンストレーションにて、検査体位やプローブの当て方、角度まで明瞭で座学だけでなく実践方式の講演でとても多くの学びがありました。中でも、描出困難な臓器を諦めず検査することも大切であるが、長時間の検査は患者に負担を強いるため、検査目的と他所見よりポイントを踏まえ、早い判断を行うことが必要と仰っていた点が印象的でした。

講義拝聴後、自身でも同様に腹部超音波を行ったところ、脾尾部や腎内血管の確認等、講演でご教授いただいたポイントを思い出しながら辛うじて見る事ができました。健康人でも消化管ガスや減衰のため観察することがいかに難しいか分かり、検査の工夫が大切であると再認識しました。これを機に、現在施行している下肢静脈・心臓超音波検査を行う際もゲインの調節や描出角度調節による血流の観察に活かしていくと共に、まだ習得に至っていない超音波領域の勉強をより一層励んでいきたいと思いました。

最後になりましたが、ご多忙の中ご講演いただきました学術委員の先生方ならびに企画・開催してくださいました国臨協関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

支部表彰を受賞して

NHO 水戸医療センター 久間 修平

この度は、国臨協関信支部の支部表彰をいただきありがとうございます。推薦いただいた茨城地区会ならびに関信支部役員の皆様にお礼申し上げます。

私自身たいした貢献も出来なかったことが申し訳なく思います。

現在、COVID-19によりこの3年間は以前の様に活動が出来ないことは寂しい思いでいます。若い頃は茨城地区会において泊まりがけで研修会および忘年会等を行ったことがとても印象にのこっております。今後学会、研修会、交流等が早く再開されることを願っております。

在籍した茨城地区会、栃木地区会、千葉地区会、群馬地区会、の皆様には大変お世話になり紙面をお借りしまして暑くお礼申し上げます。

最後に会員の皆様のご健康とご発展を祈念して、お礼の言葉とさせていただきます。

NHO 宇都宮病院 林 元久

宇都宮病院林でございます。大変恐縮ですが、この度支部表彰を頂くことになりました。

四半世紀ほど前のことです。関信支部常任理事の大役のお話をいただき、当時の私は下端の一般職員であり「とてもじゃないけど務まらない」という思いでしたが「No」という選択肢を与えられず理事を務めることになりました。その第1回理事会で、先輩職員からラフな服装で構わないと言われ、それを真に受けて理事会に出席したものの、全員スーツ姿でその場から逃げ出したい思いで最初から躓いてしまいました。

当時の支部長はじめ三役と先輩理事の方々に支えられ何とか役務を遂行できた事と、理事会終了後に同年代の理事と「理事会の2次会」を新宿界隈で開催する事がとても楽しかったと、懐かしい限りです。このような良い思い出を頂いたうえに表彰までしていただき申し訳ない気持ちです。ありがとうございました。

最後に、関信支部の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈りいたします。

NHO 西新潟中央病院 渡辺 靖

この度、第50回国臨協関信支部記念学会において支部表彰をいただきました。推薦していただいた新潟地区会ならびに関信支部の役員の皆様にお礼申し上げます。

昭和61年4月に国立療養所西新潟病院に採用され、気が付けば37年経ってしまいました。この間、関信支部副支部長、関信支部特任理事、埼玉地区会会長、新潟地区会会長などを担当させていただきました。また、学術委員会の前身であるルーチンアドバイザー制度の委員長を務めていた関係で、学術委員会の立ち上げ(WG副委員長)や副支部長として発足当初の運営にも関わらせていただきました。学術委員会の活躍を見るにつけ、関わらせていただいたことへの満足感を感じると共に、軌道に乗せていただ

いた支部役員、学術委員の皆様の努力に敬意を表するばかりです。さらに、支部との関わりの中で、研修会などの講師(微生物検査関連)を幾度か務めさせていただいたことも良い思い出です。

今回の表彰は、これらの活動への労いであると感じておりますが、私に関わってくださったすべての皆様のご協力とご理解があってこそだと思っており、感謝の念に絶えません。

最後に関信支部および会員の皆様のご発展を祈念し、お礼とさせていただきます。

NHO 小諸高原病院 沼田 ますみ

この度、第50回国臨協関信支部記念学会において支部表彰を賜りました。推薦して頂いた長野地区会ならびに関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

昭和59年国立東京第二病院で採用になり、5施設37年間勤務させていただきました。そのうちの31年間は病理に勤しんでまいりました。自身のスキルアップができたのも、多くの先輩や良き後輩に恵まれご指導・ご支援を頂いたおかげと大変感謝しております。

新型コロナウイルスにより出会いの場が激減しましたが、これまで関信支部学会や支部研修会を通して多くのことを学び、東京・山梨/千葉/長野地区会を通し、いろいろな人と出会えたことは私自身の財産でもあります。

検査は今後タスク・シフト/シェアの取り組みを通し、今まで以上に検査技師の活躍の場が増えていくことでしょう。

最後になりますが、国臨協関信支部の益々のご発展と役員ならびに会員皆様のご活躍をお祈りし、お礼の言葉とさせていただきます。

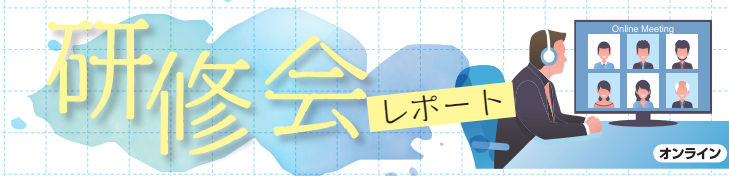
NHO 千葉東病院 小池 容子

この度は、第50回関信支部学会において支部表彰をいただき、ありがとうございました。推薦していただきました千葉地区会ならびに関信支部役員の皆様にお礼を申し上げます。

私は、昭和59年に国立療養所下志津病院に賃金職員として採用され3年弱勤めました。朝のトイレ掃除から始まって厳しい指導があり、先輩からは「この修行に耐えられたらどの施設に行っても大丈夫」と言われるなか、仲間がいたおかげで、楽しく充実した時を過ごせたと思っています。女性は正職員になるのは難しいと言われていましたが、昭和62年に国立佐倉病院に採用されました。当時、結婚後退職する人が多く施設として問題になっていたため、施設面接で結婚の意思を聞かれて「当面の予定はありません」と答えた事を今でも鮮明に憶えています。

今は、権利は保証され伴うシステムの構築もされつつありますが、その反面人間関係など別な意味で大変な時代代だと思います。

最後に、会員の皆様のご健康とご発展を祈念して、お礼の言葉とさせていただきます。



令和4年度医療職(二)・福祉職 キャリアアップ研修に参加して

NHO 霞ヶ浦医療センター
宇都木 健



令和4年6月22日(水)、テレビ会議システム Webex を利用した「令和4年度医療職(二)・福祉職キャリアアップ研修」が開催されました。

午前中は「主任の役割と期待について」「主任として必要な労務管理」「国立病院機構の運営状況について」の講演がありました。講演では、後輩技師の指導方法やコミュニケーションの重要性、技師長、副技師長が期待する主任像などを学ぶ事ができました。また経常収支や減価償却費など経営に関する基礎知識をわかりやすく教えていただき、検査科だけではなく、病院の経営に関する事にも意識を向けていこうと思いました。

午後からは職種別分科会となり、「ミスばかりの新人、あなたならどうしますか？」をテーマにグループ討議を行いました。グループ討議では4グループに分かれ、「どのように指導するか?」「新人を教育するうえで大切なことは?」「こんな指導のしかたはいけない」に設定し各チームで討議を行いました。自分は新人教育にあまり関わってこなかったもので、「新人は習うより慣れろ」的な考えを持っていましたが、グループ内での新人に対する考え方や指導方法はとても的確で、新人に寄り添った意見が多く圧倒されました。自分も新人に対して建設的な指導ができるように努力していきたいと思います。

今回の研修で、主任という立場の重要性を改めて認識する事ができました。主任になった際には、新人技師や後輩技師の育成、上司の補佐、コミュニケーションの重要性など、この研修で学んだ事を日々の業務に役立てて実践していきたいと思います。

最後になりますが、ご多忙の中今回の研修を企画、開催してくださいました国臨協関信支部及び関東信越グループの皆様と、ご指導いただきました講師の先生方に心より感謝を申し上げます。

令和4年度医療職(二)・福祉職 キャリアアップ研修に参加して

NHO 千葉東病院
江口 千尋



令和4年6月22日(水)に医療(二)・福祉職キャリアアップ研修がWeb開催されました。

午前は、主任試験の現状についてから始まり、主任として知っておくべき労務管理、国立病院機構の運営状況についての講義でした。

主任試験の講義では職種別の合格率が開示され、筆記試験対策が最も重要であることを実感しました。

労務管理や病院運営については、日常の業務ではあまり耳にしない言葉が多く、理解するのに必死でしたが、わかりやすく丁寧に講義して頂き、理解を深めることが出来ました。

午後からの職種別分科会がでは、事前に提示されたテーマ「ミスばかりする新人。あなたならどうする?」を、1.指導計画、2.教育するうえで大切なこと、3.こんな指導のしかたはいけないという3つの内容について自身の考えをまとめ、研修会当日は1グループ4~5名に分かれ事前に提出した各々の考えをもとにディスカッションを行い、最終的にグループの意見としてまとめ、発表をしました。

オンライン上でのコミュニケーションに試行錯誤しながらでしたが、それぞれの環境下で不安に感じていることや目指している主任像などの情報共有が出来たことは、今後の主任業務だけでなく、職場内での連携や業務の進め方においても大変参考になりました。本研修会で学んだことを日々の業務や自身の成長に生かしていきたいです。

最後になりましたが当研修会を企画開催していただいた、関東信越グループ及び、国立病院臨床検査技師長協議会の皆さま、また多忙の中研修会に参加させて頂いた職場の皆様、心より感謝申し上げます。

目指そう! 認定資格で LEVEL UP



認定救急検査技師を取得して

国立がん研究センター中央病院
松尾 理恵



2021年12月に実施された第5回（通算8回）認定救急検査技師試験を受験し、無事合格しました。埼玉病院在職時、生理機能検査室にて心臓カテーテル検査に従事した経験から、救急医療に興味を持ったことが受験のきっかけです。

認定救急検査技師試験は日臨技生涯教育研修制度修了、日臨技認定センター主催認定救急検査技師制度指定講習会の受講、学術・研修単位30単位以上の取得が受験資格要件となっているため、準備期間は最低でも2年程度必要です。試験内容は、臨床検査技師国家試験と同様の形式で、マーク式専門知識問題200問、2時間の試験となっています。

認定試験の勉強に際し、使用したのは「救急検査指針 救急検査認定技師テキスト」（日本救急検査技師認定機構）および「日本臨床衛生検査技師会 e-learning」です。認定試験の内容に関しては、基本的に「救急検査指針」から出題され、救急医療概論、救急医療における症候および疾患、外傷やショック、薬毒物についての概要、BLSの実際、多職種連携など、非常に広範囲です。臨床検査についても生化学、血液、生理、輸血、免疫、微生物など救急医療に関する分野が試験範囲となっています。また、過去問集がないため、最初はどこから勉強を始めればよいのか悩みました。ここで大変役に立ったのが「日本臨床衛生検査技師会 e-learning」内の「認定救急検査技師 PDCA サイクル学修」です。この中では、ポイントとなる部分を繰り返し学習でき、最後に单元ごと10問の小テストが出題されます。单元を受講するたびに設問の順番が変わるようにできおり、繰り返し満点が取れるまで勉強することで、出題傾向を知ることができました。実際の試験では、「日本臨床衛生検査技師会 e-learning」と同じ設問もあり、落ち着いて解答することができました。臨床検査

分野以外では救急医療概論、救急の症候の分野から多く出題されており、具体的には救命の連鎖、BLSの実際、JCS、GCSの意識障害評価、内分泌系クリーゼの病態生理に関する設問がありました。臨床検査分野では、心電図に関する設問、外傷初期診療 Primary survey における FAST に関する設問、生化学検査サンプリングの影響に関する設問などがありました。「救急検査指針」の図表から多く出題されていたので、「救急検査指針」を隅々までしっかり覚える必要があります。

今回、認定試験を受験して、救急医療の特殊性とも言えるすべての医行為において「速さ」が質の向上に繋がることを深く学ぶことができました。受験するにあたり、勉強時間の確保や年齢的な記憶力低下の問題など、非常に苦戦しましたが、この経験は緊急検査室主任として業務する上で、迅速かつ正確な検査が重要であること、優先順位の決定に関する考え方などを指導する時に役立っています。

認定救急検査技師は幅広い分野の検査に習熟したジェネラリストであり、救急検査のスペシャリストであることを求められる資格です。認定救急検査技師資格を目指す方々には、積極的に様々な分野を経験し、自分自身の可能性を広げていただきたいと思います。

最後になりますが、認定救急検査技師取得に際して、ご協力いただいたすべての方々に感謝申し上げますとともに、この資格に挑戦する方々への一助となりましたら、幸いです。



東京都臨時医療施設 ～コロナ病棟への派遣を通して～

NHO 東京病院 阪 旨子

令和4年3月10日より東京病院の敷地内において東京都臨時医療施設(以下、臨時施設)が稼働しました。臨時施設には全国の国立病院機構から医師3名、看護師50名、薬剤師2名、臨床検査技師1名、診療放射線技師2名が派遣され、80床の病棟を運営しています。

臨床検査技師の主な業務は採血と12誘導心電図検査です。第6波、7波のピーク時には約50名の入院患者を診ており、採血は一日最大14名、心電図は18名となる日もありました。入院患者は高齢者、認知症患者が多く、検査には看護師の協力が不可欠であると派遣技師の方から伺いました。

私が4月に東京病院に赴任した時には臨時施設は順調に稼働しており、臨時施設の設営が決定した令和3年10月19日からの5ヵ月で施設の建設、設備、人員の確保ができたのは国立病院機構の柔軟な対応、即応できる行動力によるものと感じました。

派遣技師の方も当初は東京病院の作成したマニュアルに沿って業務を行なっていました。業務に慣れるに従ってマニュアルも日々進化していき、また派遣技師同士で引継ができるよう、前島臨床検査専門職に勤務の調整もしていただきました。

派遣技師の方には臨時施設での業務のない時間帯は、東京病院の検査室のお手伝いをお願いしています。当検査室はローカルルールが多いのですが、皆さんの順応力・コミュニケーション能力が高く2、3日で検査室の一員のように馴染んでいるように思います。また再度派遣にきたいという嬉しいご意見もありました。

コロナ禍において自施設での業務の多忙化、人員不足の中で臨時施設への派遣を引き受けていただき感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。



NHO 東京医療センター 田中 暁人

東京都臨時医療施設派遣の機会をいただき、実働11日間と短い期間でしたが、コロナ病棟での勤務を経験させていただきました。

入院患者は、都内介護施設でのクラスター発生により入院した患者が多く、平均年齢85歳オーバーで、8割は常時オムツを着用し、6割は食事介助が必要な患者でした。また、認知症が多く、徘徊してしまう場合は個室管理し病室を施錠してあるところもありました。

勤務内容は、Full PPEを着用し、病棟内での採血と心電図が主なものでした。5月中旬とはいえ、外気温の高い日が続いていましたが、高齢患者が多いためエアコンを使用していない病室や、暖房を使用している病室もあり、毎日、汗だくになっていました。また、認知症等でこちらからのお願いを理解してもらえない時の対応や、検査をするために患者の体位や位置を変える際の力加減や、保持する場所が分からず苦労しました。

臨時医療施設派遣を経験して感じたことは、スムーズに検査を始められることが少なく、とても大変な思いをしましたが、我々臨床検査技師より長く患者と接して、献身的な看護をしている病棟看護師の偉大さ、忍耐強さに圧倒されました。臨床検査技師が病棟等で活躍するためにはタスク・シフト/シエアの資格面だけでなく、介護のスキルも重要だと感じました。

この派遣業務は、私にとって大変貴重な経験となりました。臨時医療施設派遣がいつまで続くのかわかりませんが、多くの方に経験していただき、臨床検査技師の働き方を大きく変える一歩になることを期待しております。

最後になりましたが、本派遣に際して、ご尽力いただいた関東信越グループ 前島臨床検査専門職、派遣先となった東京病院の永井技師長はじめ、検査科スタッフの皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



NHO 甲府病院 北澤 里奈

第6波が収束し始めた5月末より3週間、東京病院内に増設された東京都療養施設に、臨時職員として派遣されました。

業務内容は、入院時の採血と心電図、容態の変化に合わせた追加検査への対応と東京病院での業務補助でした。検査時のPPE着用はとても暑くて、曇り止めに忘れた時には患者の顔も受付票の文字も見えず患者確認に苦戦したため、事前準備の大切さが身に沁みました。

施設の感染管理として全病室内は陰圧、色分けによるゾーニングが為されていました。主に、認知機能の低下がみられる方を受け入れており、徘徊の恐れのある患者の病室は外から施錠し、職員の感染を防ぐ対策も徹底されていました。

検査前の説明時には、「扉が開かないんだよね。」や「俺の部屋どこだっけ。」と関係のない質問を繰り返す患者もあり、検査に対する理解を得るのに時間がかかり、検査時の体位確保にも手間取ってしまいました。コロナ禍の病棟で患者生活に介入する為には、状況や症状に合わせた患者接遇を学ぶ必要があり、臨床検査技師が病棟に進出していく為にも、患者接遇は大切だと感じました。

現在第7波のピークアウトを待たず、第8波の到来が懸念されている中、携わる医療関係者の疲労は癒えることなく、業務は増える一方です。今後 With コロナ社会となる中で、コロナウイルスと共存する新しいライフスタイルの確立が必要になっていくのではないのでしょうか。

最後になりますが、このような機会を与えて下さった前島専門職、永井技師長をはじめ東京病院のスタッフの方々に御礼申し上げます。



会員のひろば

国立がん研究センター東病院
秋元 成美



会員のみなさん、コロナワクチンは打ちましたか、熱は上がったでしょうか？私の周りでは熱が上がると若く、上がらないと年寄りだとかで話が盛り上がりました。そんな些細な話でも場が和み、コミュニケーションが取れるのって素敵ですよ。会話からは他にも色々な情報が得られる気がします。

私には二人の息子がおり、子供達のスポーツ活動を通じて沢山のひとと出会いコミュニケーションをとる事ができました。

特に次男がスポーツ少年団のサッカーに入団した時のこと。私は、サッカーのルールもほとんど分かりませんでしたが、息子がサッカーを始めるとなると知らない訳にはいきません。オフサイド、スローイン、ペナルティエリア、ボランチなどプレイが始まると色々な言葉が飛び交います。隣にいる父兄の方に、「今、何があったの？どうして相手ボールになったの？」と教えてもらいました。そんな会話から始まり、応援に行く度に周りの父兄の方々と、たくさんのコミュニケーションが取れるようになりました。

そんな時に息子達のチームが地区大会で優勝するという奇跡がおきました。みんな大興奮で喜び合いました。「子供達

にサプライズをしよう！」と一人のお母さんの提案で、父兄達手作りのケーキとフルーツポンチを作る事にしました。お料理が得意なお母さん、果物（いちご、すいか、ぶどう）を作っている父兄など、みんなで協力し合ってお祝いをしてあげることができました。これを機に、全員がますます打ち解け、家の事情でサッカーの送



迎が出来ない時、小学校の行事の時、子供が悩んでいる時など情報を共有することで、乗り越えることができました。

中学に入ると次男は、テニス部に入部しました。スポーツクラブでテニスを教えている父兄の方が、市内のテニスコートでの練習や、千葉県白子町で合宿をして下さることもありました。この時も、色々な父兄とコミュニケーションをとる事ができました。そして、テニス部の親子さんからの情報が、高校受験時の大きな助けとなりました。

高校に入ると次男は、ラグビー部への入部を決めました。タックルも激しいし、歯が折れるのでは、大けがするのではという、私の心配をよそに、息子はラグビーに一生懸命に取り組んでいます。

先日、初めての試合があり、応援に行きました。またしてもルールが分かりません。さらには、自分の息子とは違う方を見ており、隣の父兄にコンバージョンキックを蹴ったのが息子だと教えてもらう始末。大事なシーンを見逃してしまいました。

これからは、ラグビーの勉強の始まりです。今までのように教えてもらいながら覚えていけるとと思います。ラグビー部の父兄の方とたくさん楽しみたいと思います。

会員の皆さんも子育て中の方がたくさんいらっしゃると思います。子供を通じて人と知り合い、色々なお話が聞けるのは、すごく楽しいですよ。子育てだけではありませんが、多くのひととコミュニケーションを積極的に取るのはいかがでしょうか。



人事異動（令和4年4月2日～令和4年7月1日付）

辞令交付日	異動内容	氏名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
4月4日	採用	友光正熙	NHO 東京医療センター	非常勤		
4月13日	採用	原沙緒	NHO 下志津病院	非常勤		
4月15日	退職	小松久人			NHO 東京医療センター	主任技師
4月25日	採用	竹村寛昭	NHO 東京医療センター	非常勤		
4月30日	退職	高橋邦昭			NHO 千葉東病院	非常勤
		安嶋舞			国立がん研究センター東病院	非常勤
5月1日	採用	村田桃子	国立がん研究センター東病院	技師		
		西洋平	国立成育医療研究センター	非常勤		
		赤羽佳奈美	国立国際医療研究センター病院	非常勤		
5月9日	採用	児玉徳志	NHO 横浜医療センター	非常勤		
		赤木陽子	NHO 横浜医療センター	非常勤		
		石川遼	国立国際医療研究センター病院	非常勤		
5月16日	採用	福田幸子	国立がん研究センター東病院	非常勤		
5月31日	退職	草間亮			NHO 下志津病院	技師
		岸浦美波			NHO 災害医療センター	非常勤
		及川祐衣奈			NHO 東京病院	非常勤
6月1日	採用	山田希	NHO 下志津病院	技師		
		山田みづ紀	NHO 東京医療センター	技師		
		萩原理恵	NHO 高崎総合医療センター	非常勤		
		橋本悠洋	NHO 東埼玉病院	非常勤		
		宇山静香	国立がん研究センター中央病院	技師		
6月16日	採用	藪下凌平	国立国際医療研究センター病院	非常勤		
6月30日	退職	山田浩司			国立がん研究センター中央病院	主任技師
		老後聡美			国立国際医療研究センター病院	技師
		岩下奈央			国立がん研究センター中央病院	技師
		渡部信栄			NHO 西新潟中央病院	非常勤
7月1日	採用	高橋由香	国立国際医療研究センター病院	期間職員		



今後の研修会のお知らせ

令和4年度関信支部主催第2回研修会

令和4年12月中旬に開催予定

令和4年度関信支部主催第3回研修会

令和5年2月中旬に開催予定

※詳細は後日お知らせします

ホームページ掲載のお知らせ ～50年のあゆみとOB会活動～

第50回国臨協関信支部記念学会の展示フロアにてご視聴いただいた「50年のあゆみとOB会活動」をホームページに掲載することに致しました。会員専用ページのOB会に掲載しますので、まだご視聴いただいていない会員の皆様にご覧いただけるようお知らせいたします。

編集 後記

第50回国臨協関信支部記念学会では430名を超える多くの会員の皆様にご参加いただきまして、ありがとうございました。臨場感あふれる学会をお楽しみいただけましたでしょうか？

ここ数年、コロナ禍の主流であるWeb学会はどこからでも参加できて良いですが、そろそろ集合型学会ならではの交流もしたいと思う今日この頃です。まもなく寒い冬が本格的にやってきます。温かい鍋やおでんなど美味しいものを食べ、適度にリフレッシュして健康で新年を迎えましょう。広報 鷹取

写真大募集

関信支部ニュース231号（新年号）の表紙写真を会員の皆様から募集いたします。

採用された方には粗品を進呈しますので、奮ってご応募下さい。

募集期限は11月30日（水）まで

宛先：国立国際医療研究センター病院
渡辺順也

Email: jwatanabe@hosp.ncgm.go.jp



覚えよう 身につけよう 検査技術！

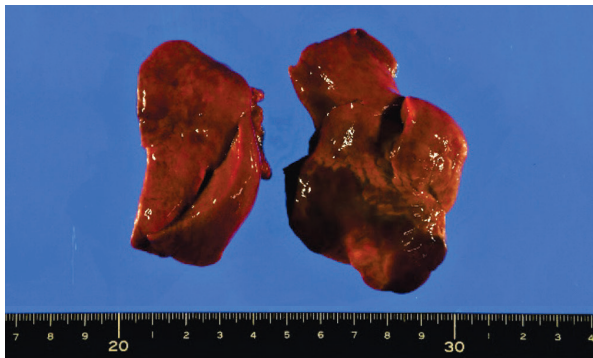
国立成育医療研究センター 池上 陽太

適切な知識・対処法を覚え、自信をもって最良の標本作製しよう

近年、病理検査を取り巻く環境が大きく変化し、自動化・標準化など目まぐるしく進歩を遂げました。しかし、まだまだ手作業が必要な部分が多いのも事実です。職人と呼ばれるベテランの方もおられると思います。そんな職人たちに近づくヒントとなり、一緒に勉強できる機会となれば幸いです。

以下の問題はすべて不適切な事例です。何が問題となるのでしょうか？

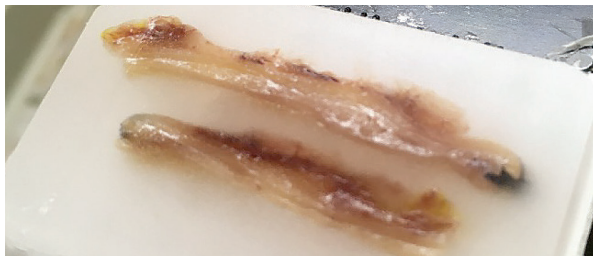
Case1 肺マクロ画像



A: 左右置き間違い。左肺は2葉、右肺は3葉、写真上側を頭側に、自分から見て向かい合った状態となるよう撮影する。周辺に血液・汚れがつかないように注意しましょう。

アドバイス: 解剖学的知識を身に着け正しく撮影できるようにしよう。

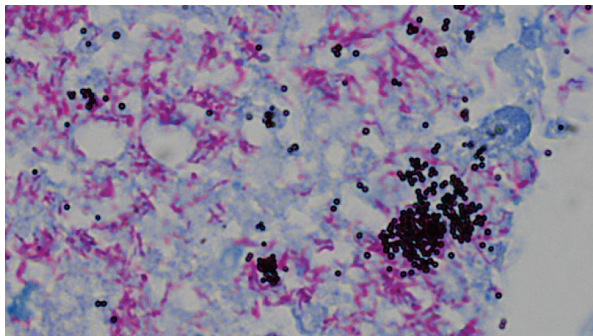
Case2 薄切面出し(消化管)



A: 消化管筋層付近のささくれ。このまま標本作製すると虫食いの原因となる。白くささくれている箇所をきれいに整えてから標本作製する。

アドバイス: 薄切のスピードを変えたり厚さを変えて面を整えてみましょう。

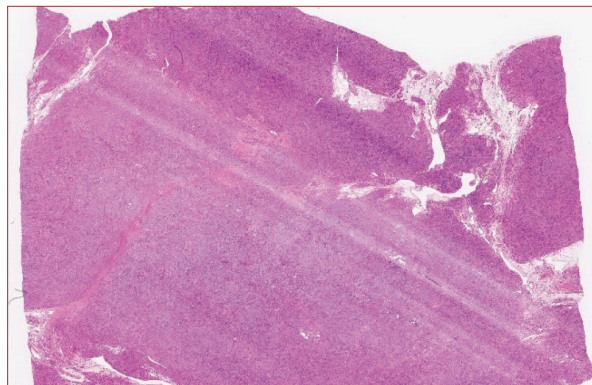
Case3 チールネルゼン染色



A: 染色液の細菌汚染 標本上に多数の球菌が見られます。

アドバイス: 染色液を交換しましょう。

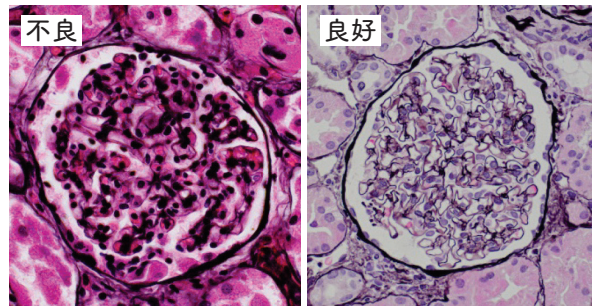
Case4 HE標本



A: チャタリング 筋腫や骨等の硬組織に起こりやすい。

アドバイス: 薄切スピードやブロックの向きを変えてみましょう。またチャタリング防止機能の付いたミクロトームもあります。活用してみましょう。

Case5 PAM染色(腎臓)



A: 切片が厚い。PAM 染色は切片の厚さで染色の優劣が決まります。切片は約1μmあるいは可能な限り薄く薄切する。

アドバイス: 薄く薄切する為には、いろいろな方法があります。ここでは書ききれないので身近な先輩たちに聞いてみましょう。

今回の標本は人為的に作成しています。違和感があるかと思いますがご容赦下さい。

